

研究テーマ

「なかまとかかわりながら よりよく生きようとする東っ子の育成」
～学び合い 人間関係を深め 自分たちでつくる生活をめざして～

八頭町立郡家東小学校

アドバイザー：國學院大學 人間開発部教授 杉田 洋 氏

1 はじめに

これからの社会では、課題の解決を主体的・協働的に行うことが求められている。様々な課題への対応や多様な集団と向き合い、よりよい解決に向かう話し合いや活動が必要となる。そして、一連の活動を通して、それぞれの立場での自己有用感を味わい、社会参画への意義を実感するサイクルができあがることで、よりよい自分、よりよい社会の実現へとつながっていく。

本校児童のよさとしては、素直でまじめに物事に取り組み、指示されたことに一生懸命に向き合い、最後までやり遂げることである。しかし、経験や自信のなさから周囲に流されやすく、周りに合わせることで安心感をもつ様子も見受けられていた。この3年間の「主体的な生活づくり」の取組を推進してきたことで、児童は自分たちでつくる生活づくりへの喜びを感じるようになってきた。

このような経緯や実態から、研究主題「なかまとかかわりながら よりよく生きようとする東っ子の育成」を継続して取り組んできた。個の成長は「なかまとかかわり」の中で生まれ、集団の成長もまた、前へと伸びようとする個があつてこそ実現される。「よりよい」方向を共通理解し、自分にとってもみんなにとってもよいことをつくり出すために、國學院大學人間開発部教授の杉田洋氏にアドバイザーとして指導を受け、研究を深めることができた。

2 実施期日 平成29年5月29日（月）

- ① 2年1組「学級活動（2）」授業参観
- ② 今年度の研究の方向性について（指導・助言）
- ③ 5年2組「学級活動（1）」授業参観
- ④ 研究の重点について（指導・助言）
- ⑤ 研究大会の持ち方について（指導・助言）
- ⑥ 授業研究会（指導・助言）
- ⑦ 講義「新学習指導要領と特別活動」

3 杉田先生による指導の内容

- アクティブラーニングとしての視点を持ち、学級活動でしたことが他教科でもできるようにすること。
- 違いや多様性を超えたり、生かしたりして合意形成を図れるようにすること。
- かなりの決意と覚悟を持った具体的な意思決定ができるようにすること。

○思考ツール

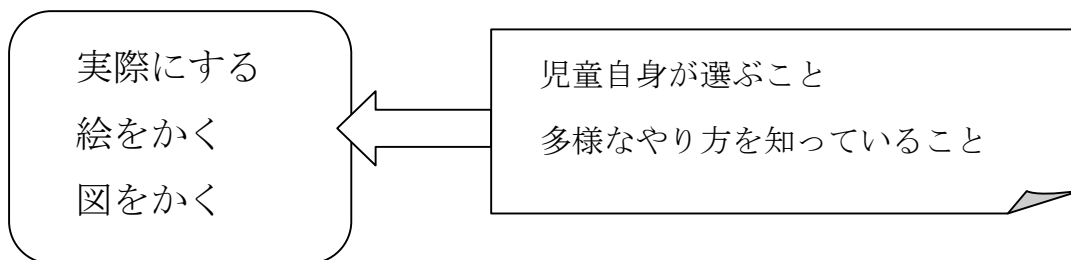
- ・実際に児童がツールを選べるようになること。
- ・経験をさせておくことが必要。多様なやり方を持たせておくこと。
- ・思考ツールは、論理的になり感情論にならない。
- ・どの教科でも使っていくこと。

○解決方法を児童が選ぶ

→「先生、意見が出ないので友達と話し合ってみたい。」
児童の方から、やりたいと言えること。

○実際にやってみること

- ・この発想を、子ども達を使いこなすことができるようにする。
- ・使った経験があるから、使おうとする。経験させておくことが大切。



○柱ごとにめあてを作ってはどうか。

- 「まとめる」方向性を示す。
- 「比べ合う」では、比べ合うその理由や決定する数を示す意味も。
- 黒板に明記することも考えられる。

このことについて、「柱ごとのめあてを入れた方がいいのか。」という質問をしました。

「必ずしなければいけないということはありません。」と言われました。検討する価値はあるだろうという意味合いで言われたと、受けとめています。それぞれ、チャレンジしてみることはいいと思います。研究として取り入れていくことは、現段階では考えていません。

○話合う言葉について

- ・賛成です。「例えば～」
- ・主語、述語を整理して話す。
- ・話しかけるような言い方。「～ですよ。」
- ・同意を求める。共有を求める。「ここまでは、分かりますか。」
- ・友達の考えに寄り添う言い方。
- ・お互いに、がんばろうという雰囲気。

○まとめへと向かう話し合いをサッカーに例えると

パス	→	単なる意見。
ドリブル	→	いよいよ次にシュートをうつよ。 まとまってきたけれど、ここが問題。 ここが問題だけれど、こうすればいいと思う。
シュート	→	歩み寄り。条件に合ったこと。 もっとよくするための合意形成。

○学級活動（１）（２）とも、時計の掲示をすること。

○柱１の比べ合う段階の話し合い→本当に比べ合っているか。

「〇〇がいい」という、賛成、反対意見を述べるが、比べて考えているのか。

AとBとを比べると、～がいいという見方

ちょっといい	同じ視点でみて、 その違いを見つけること	どれも「感謝」が伝わるけれど、こっちの方が伝わるんじゃない。
もっといい		
さらにいい		

○学級活動（２）の意思決定

・「決める」段階の時間確保

→「こうなりたい」から「こうする」ということを可視化させながら、更に、その意思決定したものを再修正すること。意志決定したことの発表も含め15分の確保をしてはどうか。

「見つける」	15分
「決める」	15分

自分の課題に合った自己決定をするための時間配分については、児童や学年の実態にも配慮が必要です。チャレンジをして、検討していきましょう。

4 おわりに

昨年度に引き続き杉田洋先生の指導を受けることで、これまで本校が取り組んできた研究の方向性や課題、成果を確認することができた。特に、指導のなかの「郡家東スタイルができた。研究の成果が着実に積み上がり、それが子どものものになりつつある」の言葉に、職員全員が研究実践への確かな手応えを感じるとともに、10月25日（水）に本校を会場に開催される八頭郡小学校教育研究会の研究大会に向けて自信をもつことができた。

今後も研究主題の実現に向けて、職員が一丸となって取り組んでいきたい。